

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23330014

研究課題名(和文) グローバル公法秩序理論構築に向けて

研究課題名(英文) Toward a theory of global public law

研究代表者

濱本 正太郎 (Hamamoto, Shotaro)

京都大学・法学(政治学)研究科(研究院)・教授

研究者番号：50324900

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：国際社会に中央集権的立法機関が不在である中で、私人にまで規律が及び規範が、ネットワーク型の法形成プロセスを経て成立する現象が見られる。とりわけ、投資条約仲裁について明確であり、特定の条約に基づいて設置される仲裁廷が当該条約に関する具体的な紛争の処理に当たって当該条約とは関係ない他の条約に基づいて他の仲裁廷の判断を参照することにより、一般法が生成したかのような状態が成立しつつある。投資以外の多くの分野でも私人の活動を規律する一般法形成現象が見られ、それには国際的な「判例」が大きな役割を果たしている。もはや、国内的規制を行う際にグローバル平面での法形成を考慮しないのは困難になりつつある。

研究成果の概要(英文)：In the increasingly globalized international community, where no centralized legislature exists, more and more activities of private persons as well as States are gradually regulated by globalized norms. Such norms tend to be engendered through a network-type law-making process. The phenomenon is particularly conspicuous in international investment law, where a treaty-based arbitral tribunal often refers to and relies on decisions rendered by other arbitral tribunals established on other treaties that are irrelevant to the disputing parties of the case with which the tribunal deals. This process tends to engender norms generally applicable to investment disputes. In many fields other than investment law, one can observe a growing process through which general norms regulating private persons activities are generated. International "jurisprudence" plays an important role in this respect. It is becoming difficult to conceive domestic regulations without referring to global norms.

研究分野：国際法

キーワード：国際法 トランスナショナル法 グローバル化 国際秩序 私的アクター グローバル法

な場合には、個人の経済活動に大きな影響を与える事項について国連安全保障理事会が「立法」を行い、その限りで中央集権的立法機関が国際社会に誕生したかのごとく見えることがある。ただし、これはごく例外的場合にとどまり、実例も少ない(論文)。

このような動きを政治学的観点から見るならば、古典的主権国家間に成立するネットワークを前提としつつ、国際標準・規律の不在あるいは負の外部効果の不利益の拡大に伴い、ゆるやかな国際制度が断片的に成立してきたとみることもできる(論文)。もっとも、制度のあり方はあらゆる分野に共通というわけではない。国境を越える経済活動の中でも、金融に関しては伝統的に国際法的規律が極めて緩やかであり、それは現時点でも変わっていない。ここでは、政治的矯正を用いて特定の均衡への収斂を促す作業が継続的になされている(論文)。

ネットワークに基づく議論は、中央集権的権力の存在を前提とせず、広い意味で市場における様々なアクターの活動を考察するものと言える。市場の機能についての法哲学的検討は膨大であり、それを踏まえて研究を進めることには大いなる困難が伴うが、市場の前提とも言える「平等」についての従来の研究を批判的に考察することにより、議論を深めることができた(論文、)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 19 件)

瀧本正太郎、"Requiem for Indirect Expropriation: On the Theoretical and Practical Uselessness of a Contested Concept", PILAGG e-series/IA/1, École de Droit, Sciences Po de Paris, 2013, pp. 1-28.
<http://blogs.sciences-po.fr/pilagg/pilagg-e-series/>

瀧本正太郎、「投資条約仲裁ネットワークの国際(世界)法秩序像」法律時報 85 巻 11 号(2013 年) 37-42 頁。

瀧本正太郎、"Protection of the Investor's Legitimate Expectations: Intersection of a Treaty Obligation and a General Principle of Law", in Wenhua Shan & Jinyuan Su eds., *China and International Investment Law*, Leiden, Brill/Nijhoff, 2014, pp. 141-169.

瀧本正太郎、« Méthodologie extraordinaire pour trouver le sens ordinaire? : Le sens ordinaire pour les tribunaux compétents en matière

d'investissement », *Unité et diversité du droit international : Ecrits en l'honneur du Professeur Pierre-Marie Dupuy*, Leiden, Nijhoff, 2014, pp. 689-707.

瀧本正太郎、「投資家対国家仲裁は『仲裁』ではない 仲裁人の独立性・不偏性からの考察」浅田正彦ほか(編)『国際裁判と現代国際法の展開』(三省堂、2014 年) 143-166 頁。

瀧本正太郎、"Compensation Standards and Permanent Sovereignty over Natural Resources", in Marc Bungenberg & Stephan Hobe eds., *Permanent Sovereignty over Natural Resources*, Cham, Springer, 2015, pp. 141-154.

瀧本正太郎、"Parties to the 'Obligations' in the Obligations Observance ('Umbrella') Clause", *ICSID Review-Foreign Investment Law Journal*, vol. 30, 2015, pp. 449-464.

瀧本正太郎、« L'Etat situé dans le droit international de l'investissement », in « L'être situé », *Effectiveness and Purposes of International Law : Essays in Honour of Professor Ryuichi Ida*, Leiden, Nijhoff, 2015, pp. 3-22.

浅田正彦、"The OPCW's Arrangements for the Missed Destruction Deadlines under the Chemical Weapons Convention: An Informal Noncompliance Procedure," *American Journal of International Law*, Vol. 108, No. 3 (July 2014), pp. 448-475.

浅田正彦、「安保理決議に基づく輸出管理」浅田正彦(編)『輸出管理』(有信堂、2012 年) 124-152 頁

亀本洋、「R・ドゥオーキンの『資源の平等』論を真剣に読む」法学論叢 176 巻 2・3 号(2014 年) 62-172 頁

亀本洋、「運平等主義の問題点 サミュエル・シェフラの見解の紹介」法学論叢 176 巻 5・6 号(2015 年) 102-143 頁

酒井啓亘、「国連国際法委員会による法典化作業の成果 国際法形成過程におけるその影響」村瀬信也・鶴岡公二編『変革期の国際法委員会 山田中正大使傘寿記念』(信山社、2011 年) 17-50 頁

酒井啓亘、「国際司法裁判所における『適切な裁判運営』概念 付随手続での機能を

手がかりとして」浅田正彦・加藤信行・酒井啓亘編『国際裁判と現代国際法の展開』(三省堂、2014年)57-93頁

鈴木基史、「国際ガバナンスの本質と変容 - 経済危機を越えて」レヴアイアサン 50号(2012年)8-35頁

鈴木基史、「現代政治経済学の課題と変容」経済セミナー661号(2011年)24-29頁

曾我部真裕、「ヨーロッパ人権裁判所判例を通して見た『表現の自由と制度』の一断面」小谷順子ほか(編)『現代アメリカの司法と憲法』(尚学社、2013年)62-74頁

曾我部真裕、「『情報法』の成立可能性」長谷部恭男ほか(編)『法の生成/創設(岩波講座 現代法の動態第1巻)』(岩波書店、2014年)123-144頁

[学会発表](計3件)

瀧本正太郎、「A Third Generation of Japan's Investment Treaties?», Panel B1: The Changing Geography of International Investment Law: The Dawn of the Asian Century?, The Fourth Biennial Conference of the Asian Society of International Law, New Delhi, India, 14-16 November 2013.

瀧本正太郎、「アジア・太平洋地域のメガFTAにおける投資仲裁」アジア国際法学会日本協会第5回研究大会(午後の部「メガFTA時代の到来と多角的貿易体制のあり方」)2014年6月15日、中央大学市ヶ谷キャンパス。

瀧本正太郎、「UNCITRAL Rules and Convention on Transparency in Treaty-based Investor-State Arbitration», 2014 UNCITRAL Japan Seminar, The Development of Investor State Dispute Settlement from a viewpoint of Asia (国際商取引学会2014年全国大会)同志社大学、2014年10月25日

[図書](計1件)

深澤龍一郎『裁量統制の法理と展開 - イギリス裁量統制論 - 』(信山社、2013年)(本文434頁)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等
該当せず。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

瀧本 正太郎 (HAMAMOTO, Shotaro)
京都大学大学院法学研究科・教授
研究者番号: 50324900

(2) 研究分担者

浅田 正彦 (ASADA, Masahiko)
京都大学大学院法学研究科・教授
研究者番号: 90192939

亀本 洋 (KAMEMOTO, Hiroshi)
京都大学大学院法学研究科・教授
研究者番号: 30183784

酒井 啓亘 (SAKAI, Hironobu)
京都大学大学院法学研究科・教授
研究者番号: 80252807

鈴木 基史 (SUZUKI, Motoshi)
京都大学大学院法学研究科・教授
研究者番号: 00278780

曾我部 真裕 (SOGABE, Masahiro)
京都大学大学院法学研究科・教授
研究者番号: 80362549

深澤 龍一郎 (FUKASAWA, Ryuichiro)
九州大学大学院法学研究院・教授
研究者番号: 50362546

(3) 連携研究者

該当せず。